

○次 れい 言語生活と学びの接続 (動物と人間の関わりを描いた本を読む)	第一次	第二次					第三次				
	言語活動全体の見直し	教科書教材を目的を持って読む					自分の表現に適用する				
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
	<p>★単元全体の学習課題を設定し、学習の見通しを持つ。</p> <p>動物と人間の関わりを描いた本の「Good (グット) くるところ」を推せんをしよう。</p> <p>・「Good (グット) くる!! 推薦リーフレット」を用いた、指導者による動物と人間の関わりを描いた本の推薦の例 (モデル) を見て、学習の見通しを持つ。</p> <p>★モデルから、単元の各時間の学習課題を作る。</p> <p>・どんな力が付けば「Good (グット) くるところ」を推薦できるか考え、単元の各時間の学習課題を作る。</p> <p>・単元全体の学習の流れの大体を、全体で考える。</p> <p>主体的な学び</p> <p>目的のある交流</p>	<p>★「大造じいさんとがん」を読み、あらすじをつかむ。</p> <p>・「時・場・人物」に着目して、物語を八つに場面分けする。</p> <p>・八つの場面には、それぞれどのようなことが書かれているか、短い言葉でまとめる。</p> <p>・八つの場面を設定場面「出来事場面」「出来事の後場面」に整理する。</p> <p>・物語のあらすじを簡単にまとめる。</p> <p>全体を把握して読む</p>	<p>★「大造じいさんとがん」を読み、大造じいさんと残雪の関係について考える。</p> <p>・大造じいさんと残雪の関係は、どのような関係だと考えたか、意見を出し合う。</p> <p>・大造じいさんと残雪の関係について考えた理由や根拠を基に、両者の関係がどのように変わっていったかを確認する。</p> <p>・大造じいさんと残雪の関係と人物像を、短い言葉でまとめる。</p> <p>全体を把握して読む</p>	<p>★「大造じいさんとがん」を、自分にとって「Good (グット) ! くるところ」がどこか、考えながら読む。</p> <p>・自分の心に残ったところを選び出し、理由や根拠を明らかにしながら考えをまとめる。</p> <p>全体を把握して読む</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p>	<p>★自分にとって「Good (グット) ! くるところ」やその理由・根拠を交流する。</p> <p>・自分のワークシートを基に、「Good (グット) ! くるところ」、その理由や根拠について、友だちに聞いてみたいことを示して交流する。</p> <p>・グループで交流した内容を、全体交流する。</p> <p>目的のある交流</p>	<p>★「Good (グット) ! くるところ」をリーフレットに書きまとめる。</p> <p>・なぜその部分を取り上げたか、文章を引用したり要約したりして根拠を明らかにしながら、自分の考えをまとめる。</p> <p>・どんな人に薦めたいかを明らかにしながら、「大造じいさんとがん」の推薦文を書く。</p> <p>・作者のことや、同じ作者の他の作品を紹介したり、取り上げた部分のイラストを描いたりするなど、創意工夫してリーフレット作りをする。</p> <p>全体を把握して読む</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p>	<p>★動物と人間の関わりを描いた本を読んで文章全体をとらえ、内容の大体をつかむ。</p> <p>・第二次の学習を生かし、物語のあらすじや登場人物、その相互関係を簡単にまとめる。</p> <p>全体を把握して読む</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p>	<p>★動物と人間の関わりを描いた本を、自分にとって「Good (グット) ! くるところ」がどこか考えながら読み、自分の考えをまとめる。</p> <p>・なぜその部分を取り上げたか、文章を引用したり要約したりして根拠を明らかにしながら、自分の考えをまとめる。</p> <p>・「Good (グット) ! くるところ」をリーフレットに下書きする。</p> <p>全体を把握して読む</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p>	<p>★「Good (グット) くる相談会」を開き、動物と人間の関わりを描いた本の「Good (グット) ! くるところ」やその理由・根拠を交流する。</p> <p>・「推せんリーフレット」を使って物語のあらすじ、人物の関係について説明する。</p> <p>・「Good (グット) ! くるところ」、その理由や根拠について、友だちに聞いてみたいことを示して交流する。</p> <p>目的のある交流</p> <p>★交流したことを基に、考えを再構築する。</p>	<p>★前時の交流で再構築した自分の考えを基に、リーフレットを加筆修正する。</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p> <p>★作者のことや、同じ作者の他の作品を紹介したり、取り上げた部分のイラストを描いたりするなど、創意工夫して、リーフレット作りをする。</p>	<p>★代表児童の「ここがGood (グット) くるところ」で「ショー!!!」を開き、学習のまとめをする。</p> <p>・自分の心に残ったところ、その部分を取り上げた理由や根拠をどのように示しているか、推薦文を自分の考えを基に書いていくか確かめる。</p> <p>目的のある交流</p> <p>★代表児童やグループでの発表を基に、本単元の学習を振り返り、自分が考えたことをまとめる。</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p>
	単元を貫く言語活動: 「Good (グット) くる! 推せんリーフレット」を作成して、本の推薦をする										
	評価の工夫										
	動物と人間の関わりを描いた本を読む										

日常的な言語活動 (動物と人間の関わりを描いた本を読む)

このお話を推せんするのは、

五年

組

（

）

です。

【友だちとずっと仲良くしたい】人に  
推せんします！

作品タイトル

「じんぎつね

**あらすじ** 兵十が捕まえたうなぎを、いたずらで逃がしてしまったごんは、兵十の家にくりや松たけなどを届けるようになる。  
お念仏の明くる日、兵十のうちにくりを届けに行ったごんは、兵十にうたれてしまう。うった後、兵十はいつもくりをくれていたのはごんだと気付く。

**本文**

うちの中を見ると、土間にくりが落ちて置いてあるのが、目につきました。「おや。」  
と、兵十はびっくりして、ごんに目を落としました。

「ごん、おまいだったのか、いつも、くりをくれたのは。」

ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。

兵十は、火なわじゅうをばたりと取り落としました。青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。



グッと「Good! くるところ」は、ここだ!!



**理由**

ぼくがこの本で「Good (グッと) くるところ」は、ごんを火なわじゅうでうった兵十が、くりを今まで届けてくれたのがごんだと気付く場面です。

ごんは、いたずらのつぐないをしていることを、兵十に気付いてほしかったのだと思います。兵十はごんをうった後、「火なわじゅうをばたりと取り落とし」ます。兵十は、ごんの気持ちに気付いたのだと思いました。

ぼくも、友だちにいたずらをされて、腹が立つことがあります。もちろん、友だちには悪気はないのだと思います。でも、いやな気持ちになっているぼくに、いたずらした後に優しくしてくる友だちがたくさんいます。「ごめんね。」のサインなのかあ、と思うようになりました。

友だちとずっと仲良くしたい人！ぜひ読んでみてください。

作者の新美南吉は、十七才のときに「ごんぎつね」を書いていきます。南吉のお話で、こんなお話もあります。

「でんでんむしのかなしみ」のあらすじ

ある日、でんでんむしは、「自分の中には『悲しみ』しかつまっていない」ことにうっかり気付き、「もう生きていけない」となげきます。そこで、別のでんでんむしにその話をしますが、そのでんでんむしは「私のからも悲しみしかつまっていない」といい、また別のでんでんむしも同じことを言いました。そして、最初のでんでんむしは「悲しみはだれでも持っている。自分の悲しみは自分でたえていくしかない」となげくのをやめました。

**人物相関図**

母が亡くなり、一人ぐらし。だれがくりなどをくれるか、ふしぎに思っている。

兵十へのいたずらを後かいてくりなどをとどける。

兵十

うなぎをぬすんだいたずらきつねだと思っている。

ごん

ひとりぼっちの小ぎつね。いたずら好き。母が亡くなり、ひとりぼっちになった兵十に、自分と近いものを感じている。

ぼくは、つらいことがあったとき「何でぼくぼっかり」と思ってしまうことがあります。でも、このお話を読むと、他のみんなもつらいことがあってもがんばっているから、ぼくもがんばっていこうと思えます。

南吉のお話には、いろんな動物が出てきます。出てくる動物が、ぼくの毎日を楽しいものしてくれます。

## 第5学年 国語科 学習指導案

### 1. 本単元で付けたい力

自分の考えを明確にしながら読む力

(読む過程において、優れた叙述に着目して文章全体の構成を把握し、自分の知識や経験などと関係付けて、自分の立場から考えを明確にしながら読むことができる力)

### 2. 単元名 「Good (グット) ! くるところ」を推せんしよう

(「大造じいさんとガン」 光村図書5年・「大造じいさんとがん」 東京書籍5年)

### 3. 単元目標

文章全体の構成を把握して登場人物の相互関係や心情の変化をとらえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。

【読むこと】

### 4. 目指す児童の姿

国語への 関心・意欲・態度	読むこと	言語についての 知識・理解・技能
動物と人間の関わりを描いた本を読み、自分の心に残ったところとその理由や根拠を交流したり、本の推薦を評価し合ったりして、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。(自分の考えの形成及び交流)	動物と人間の関わりを描いた本を読み、自分の心に残ったところについて、目的に応じて理由や根拠を明らかにしながら自分の考えを持つことができる。(文学的な文章の解釈)	動物と人間の関わりを描いた本を読み、文章の構成について理解することができる。

### 5. 本単元における言語活動

「自分の考えを明確にしながら読む力」を付けていくために、本単元では「動物と人間の関わりを描いた本を読み、自分の心に残ったところを推薦する文章を書く」という言語活動を位置付ける。領域を「読むこと」とし、具体的には、まず、取り上げた本の中で、自分の心に残ったところについて、理由や根拠を明らかにしながら自分の考えをまとめる。そして、薦めたい対象を明らかにしながら、本の推薦文を書く。これらの内容を「推せんリーフレット」にまとめる活動を中心に展開する。

「本を読んで推薦の文章を書く言語活動」は、第5学年及び第6学年の言語活動例として学習指導要領に示されている。本単元における「本を読んで推薦の文章を書く言語活動」では、動物と人間の関わりを描いた本を読み、自分の心に残ったところが、どのように自分の心に響いたか、それをどのような相手に伝えたいのかを児童が考えて推薦文を書く。自分の薦めたいものが、薦める相手に納得して受け入れてもらえるようにしよう、ということが、児童にとっての目的となる。推薦する対象を意識しながら、自分が取り上げた内容が伝わるように言語活動を行うことが特徴である。

学習指導要領には、第3学年及び第4学年の言語活動例として、「紹介したい本を取り上げて説明する言語活動」が示されている。この活動は、選んだ本の内容や構成全体をよく理解することや、そのために必要な文や語句の書き抜きや要約、引用することが活動の中心になっている。中学年で付けた力をベースにして、相手意識を持って「本を読んで推薦の文章を書く言語活動」に取り組んでいく。

本単元の学習に入る前に、「第〇次 言語生活と学びの接続」として、動物と人間の関わりを描いた本の読書を開始する。動物と人間の関わりを描いた本の読書をする中で、児童の心に残った本や場面を取り上げて話題とし、考えたことや思ったことについて自由に話し合う場を設けることで、学習に対する興味・関心・意欲や課題意識を高めておく。このように、単元の学習前に「言語生活と学びの接続」をしておくこと、学習後も継続して動物と人間の関わりを描いた本の読書を行うことで、児童の読書生活と学習内容がつながる。そのことで国語科の学習が今後の言語生活へ転用可能なものになり、学びの有用性の実感が増すと考える。また、たくさんのストーリーに触れさせておくことによって、本単元での手立てがより有効なものになる。

第一次では、指導者が取り上げた動物と人間の関わりを描いた本を基にした「推せんリーフレット」を提示する。第三次で行う活動のモデルを示すことにより、児童が学習に見通しを持ちやすくする。このことにより一貫した目的意識を児童が持つようになり、主体的な学びが展開できると考える。また、モデル提示のときには、次のような言語意識も持たせておく。

- ①相手意識「完成した『推せんリーフレット』を図書室に置き、全校のみんなに見てもらおう。」
- ②目的意識「自分の心に残ったところを中心に、動物と人間の関わりを描いた本を推薦しよう。」
- ③方法意識「自分が選んだ動物と人間の関わりを描いた本を、『推せんリーフレット』を用いて推薦する。」
- ④評価意識「(『評価をするときに基とするもの』を基に)「推薦した内容が、共感してもらえるような内容になっているか。手に取ってもらえるように工夫した『推せんリーフレット』になっているか。」

第二次では、文章全体の構成をとらえるために、まず、物語のあらすじや登場人物、その相互関係を簡単にまとめる。そして物語の中の自分の心に残ったところ(「Good(グット)！くるところ」)を選び出す。その「Good(グット)！くるところ」について、文章を引用したり要約したりしながら、その場面の物語全体での位置付けや心に残った根拠を示したり、自分の知識や経験と関係付けて考えたりすることにより、作品全体をとらえていく。そして、「大造じいさんとがん」の推薦文を、どんな人に薦めたいかを明らかにしながら「推せんリーフレット」にまとめることにより、本次の学習のまとめを行うとともに、第三次の学習への接続を円滑にする。

第三次では、これまでの学習を基に、自分が選んだ動物と人間の関わりを描いた本の、「Good(グット)！くるところ」を選び出し、なぜ自分の心に残ったかを、理由や根拠を明らかにする。そして、薦めたい対象を明らかにしながら、本の推薦文を「推せんリーフレット」にまとめるという言語活動を行う。これまでの学習を基にして「Good(グット)！くるところ」を選び、その理由や根拠をまとめて推薦文を書くことによって、取り上げた本を読み深めていく。この活動により、第二次で身に付けた読む力を自覚的に活用することができる。また、児童それぞれが選んだ「Good(グット)！くるところ」や、それぞれの目的に応じた推薦の仕方について交流し、多くの動物と人間の関わりを描いた本や、自分とは違った作品の推薦の仕方に触れることで、考えを広げ深める機会を設けるとともに、「もっと動物と人間の関わりを描いた本を読みたい」という意欲を持たせ、日常の言語活動の充実を図りたい。

## 6. 交流について

交流には、「気付くため」「深める(共通点・相違点を見つけて考える)ため」「別の視点で考えるため」「決めるため」「自分の考えを再構築するため」などの、様々な目的がある。その目的を児童が自覚していないと、学習効果は表れてこないと考える。そこで、本単元では、交流を行う際、その時間の具体的な目的を児童に示す。本単元における交流の目的は、以下の通りである。

第1時	単元全体の見直しを持つための交流
第5時	「大造じいさんとがん」の中で、自分の心に残ったところについて、今考えていることを伝え合い、意見や助言を受けて、自分の考えを見つめ直すための交流
第9時	自分が選んだ動物と人間の関わりの本の中で、自分の心に残ったところについて今考えていることを伝え合い、意見や助言を受けて、自分の考えを見つめ直すための交流
第11時	代表児童の推薦文の発表を聞き、確認したり参考にしたしたりして、学習のまとめをするための交流

【本単元における交流の目的】

これらの目的を、交流する前に児童へ伝えることにより、児童が目的を持って交流に臨めるようにし、学習効果を高めしていく。

## 7. 評価について

従来から、指導と評価の一体化といわれてきたが、実際には、「評価をするときに基とするもの(評価基準)」、評価の方法や評価のタイミング、「目指す児童の姿」(評価規準)に満たない児童への手立ての方法と時期等が明確でないことが少なくなかった。

そこで、本単元では、児童が主体的に学び、自分の考えを明確にしながら読む力を身に付けていけるようにするために、形成的評価や総括的評価を「主体的な学びを喚起する評価」「一時間の学びに対する評価」「単元を貫く言語活動に対する評価」の三つに分けて行っていく。これは、当センターの平成25年度「国語科教育に関する研究Ⅰ」の研究成果である。

「主体的な学びを喚起する評価」は従来の自己評価としての意味合いが強く、「一時間の学びに対する評価」の中の自己評価を活用する。具体的には、一時間ごとに自分の学びに対する評価を付箋に書かせ、次時の学習の導入時に紹介する。「一時間の学びに対する評価」は、いわゆる形成的評価で、単元の出口の言語活動のためにどれだけ力が付いたかを評価するものである。各時間の指導・学習内容により、指導者からの評価だけでなく、相互評価や自己評価なども取り入れる。「単元を貫く言語活動に対する評価」では、第一・二次で、第三次の言語活動を意識して学習したことに対する評価(主として、情意面の評価)を行い、第三次で「『評価をするときに基とするもの』を用いた言語活動に対する評価(総括的評価)」を行う。

「一時間の学びに対する評価」や「『評価をするときに基とするもの』を用いた言語活動に対する評価」を行う際、「目指す児童の姿」や「評価をするときに基とするもの」に満たない児童に対する手立ての内容とその時期を明確にし、評価を指導につなげていく。このような評価を行うことで、指導と評価を一体化させ、主体的な学びを喚起するとともに、付きたい力を身に付けさせていきたい。

	第一次	第二次					第三次				
	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時	第9時	第10時	第11時
単元活動に 対する評価	モデリング 「評価をする ときに基とする もの」										「評価をするときに基とするもの」を用いた 言語活動に対する評価(総括的評価:「読むこ と」の学習をいかした表現の内容)
主体的な 学びを喚起 する評価		前時の自己 評価を紹介 ↓ 学習意欲の喚起		指導者からの評価だけでなく、児童が他の児童のよさに 目を向けて感想を書いた場合は、意図的に紹介する。							
一時間の 学びに対する 評価	<b>本時の目標</b> 発表のモデル を見て、モデル のような活動 をするために どんな力を 付けていく のか考える 活動を通して、 単元の学習 に対して、興 味や見通し を持つよう としている。  <b>評価</b> ・指導者からの 評価 (態度・発 言・付箋) ・自己評価 (付箋)	<b>本時の目標</b> 全文を通読 し、あらす じをとらえ ることが できる。  <b>評価</b> ・指導者から の評価 (態度・発 言・記述 内容) ・自己評価 (付箋)	<b>本時の目標</b> 全文を通 読し、登場 人物の相 互関係と とらえる ことが できる。  <b>評価</b> ・指導者から の評価 (態度・ 発言・記 述内容) ・自己評価 (付箋)	<b>本時の目標</b> 全体を把握 して読み、 心に残った ところにつ いて、理由 や根拠を明 らかにしな がら交流 が自分の考 えを持つ ことができる。  <b>評価</b> ・指導者から の評価 (態度・発 言・記述 内容) ・自己評価 (付箋)	<b>本時の目標</b> 心に残っ たところ について、 理由や根 拠を明ら かにしな がら交流 し、自分の 考えを広 げたり深 めたりす ることが できる。  <b>評価</b> ・指導者から の評価 (態度・発 言・記述 内容) ・相互評価 (交流) ・自己評価 (付箋)	<b>本時の目標</b> 全体を把握 して読み、 自分の心 に残った ところ について、 理由や 根拠を明 らかにし ながら自 分の考 えをま とめる ことが できる。  <b>評価</b> ・指導者から の評価 (態度・記 述内容) ・自己評価 (付箋)	<b>本時の目標</b> 自分が選 んだ動物 と人間の 関わりを 描いた本 を読み、 大体的 内容と 登場人物 の相互 関係を とらえる ことが できる。  <b>評価</b> ・指導者から の評価 (態度・ 記述内 容) ・自己評価 (付箋)	<b>本時の目標</b> 自分が選 んだ動物 と人間の 関わりを 描いた本 の、心 に残った ところ について、 理由や 根拠を 明らかに しながら 自分の 考えを 持つ ことが できる。  <b>評価</b> ・指導者から の評価 (態度・ 「推せん リーフレ ット」) ・自己評 価 (付箋)	<b>本時の目標</b> 自分の心 に残った ところ やその理 由・根拠 について、 友だち に聞いて みたい ことを 明確に して交 流し、 自分の 考えを 広げ たり深 めたり できる。  <b>評価</b> ・指導者から の評価 (態度・ 発言・ 付箋) ・相互評 価 (交流) ・自己評 価 (付箋)	<b>本時の目標</b> 前時の交 流を基 に、物 語の中 で自分 の心 に残 った ところ につ いて、 自分 の考 えを ま とめ る こと が 可 能 な 。  <b>評価</b> ・指導者 から の評 価 (態 度・ 「推 せん リー フレ ット」) ・自己 評 価 (付 箋)	<b>本時の目標</b> 読んだ動 物と人 間の関 わりを 描いた 本や友 だちの 「推せん リーフレ ット」 を使っ た本の 推薦を 基に、 同じ題 材の作 品に対 する考 えを 広げ たり 深め たり する こと と も に、 今後 の読 書に 対 する 意 欲 を 持 つ。  <b>評価</b> ・指導者 から の評 価 (態 度・ 発 言・ 付 箋) ・自己 評 価 (付 箋)

【本単元における三つの評価】

- ・「主体的な学びを喚起する評価」 …… 「一時間の学びに対する評価」 の児童の自己評価を次時の導入時に紹介
- ・「一時間の学びに対する評価」 …… 単元の出口の言語活動のためにどれだけ力が付いたか評価 (指導者・児童)
- ・「単元を貫く言語活動に対する評価」 …… 言語活動を意識して学習したことに対する評価、総括的評価

\* 「主体的な学びを喚起する評価」では、各時間の学習課題に対応した自己評価を取り上げる。

(例) **学習課題例**⇒第4時・物語を読んで、自分にとって「Good (グット) ! くるところ」がどこか考えよう。

**付箋に書かれたAさんの自己評価(例)**⇒私の「Good (グット) ! くるところ」は、「大造じいさんは強く心を打たれて〜」のところですよ。私は習い事のことです。私は習い事のことです。「こんな気持ちになることある！」と思ったけど、他のみんなは生活の中のどんな場面でこんな気持ちになるか聞いてみたいと思いました。

※第5時のはじめに、学習課題に対応した自己評価を、「Aさんは、大造じいさんのような気持ちになることって、普段の生活でもよくあるなあって思ったんだね！それで、他の友だちが生活の中のどんな場面で同じような気持ちになるか、教えてほしいと思ったんだね。交流で聞いてみたいことが考えられているね！」などと、指導者がコメントとともに紹介する。

\*評価に関して、基準に満たない児童に対して、「一時間の学びに対する評価」では、本時の目標に照らして以下のような手立てを講じる。

評価のタイミング 手立ての時期	指導者が見取った児童の つまずきの原因	手立ての例
学習活動中であれば、その場で手立てを講じる。	既習の内容が定着していない	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の内容について確認する。 「前の学習で、〇〇のやり方について学習したね。そのやり方を使って、考えてごらん。」</li> <li>既習の内容が分かるようなメモを作成し、児童に渡す。</li> </ul>
学習後であれば、次時の学習活動前や学習中に手立てを講じる。	学習課題を意識できていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題を確認する。 「今日の学習課題は、〇〇だったね。そのことを意識して△△のことを考えてみると、どうなるかな？」 「〇〇の学習活動で、どんなことをはっきりさせるんだったかな？」 「〇〇と考えているのは、どうして？」</li> </ul>
	学習の見通しを持っていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元全体、各時間の学習の見通しを持てるよう助言する。 「この活動が終わったら、何の活動をするつもりをしている？」 「次の活動では、〇〇をすることになっていたね。今やっている活動は、〇〇にどんな風に役立つかなあ。」 「先生に、用意しておいてほしいものは、ありますか？」</li> </ul>
	自分の考えを持っていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の考えを整理し、考えが持てるよう助言する。 「どんな目的で、〇〇の活動をしているんだったかな？」 「お話の中には、どんな出来事が書かれていたかな？」 「お話の中には、〇つの出来事が書かれていたね。どれが心に残ったの？」 「〇〇さんは、どんなことを考えているか、聞いてごらん。」</li> </ul>

(例) 第6時…本文を読んで自分の心に残ったところを選び出し、その部分について理由や根拠を明らかにしながら考えをまとめることができる。〔読〕★記述内容

**Cさんの選んだ「Good (グット)！くるところ」例**

⇒「大造じいさんが手をのぼしても、残雪は、もう、じたばたさわぎませんでした。最期のときを感じて、せめて、頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に對しているような気がしませんでした。」

**Cさんの「Good (グット)！くるところ」を選んだ理由の記述例**

⇒大造じいさんは、はじめ残雪がきらいだったけど、戦って捕まえたあと、逃がしてあげたからです。

Cさんの記述は、「Good (グット)！くるところ」の根拠になっていないので、なぜその「Good (グット)！くるところ」を選んだのかが示せるように指導します。また、根拠として文中の言葉が活用できるよう、3・4年の学習内容にさかのぼって、引用や要約の仕方も確かめます。

**指導例**

「Cさんは、ここが『Good (グット)！』きたんだね。選んだ理由に『はじめ残雪がきらいだったけど』と書いているけど、物語の中のどの部分に書いてあるかな。そうそう、〇〇ページに書いてあるね。大造じいさんは、『強く心打たれて』とあるけど、なぜ強く心打たれたんだろうね。」(強く心打たれた理由について児童に考えさせてから)「そうそう、△△ページに書いてあるね。その部分をかぎかっこを使って抜き出してから、自分の考えを書いてごらん。」「Cさんが選んだ『Good (グット)！くるところ』よりも後に、大造じいさんは残雪を逃がしているんだけど、これは選んだ理由になるかな。」

\*同様に、「単元を貫く言語活動に関する評価」の中の「『評価をするときに基とするもの』を用いた言語活動に対する評価」に対する手立てについては、8.「評価をするときに基とするもの(教師用)」の項目内で述べる。

## 8. 「評価をするときに基とするもの（教師用）」

\* 尺度3が「目指す児童の姿」（評価規準）のBにあたる。

尺度	「推せんリーフレット」の内容
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の内容を的確に押さえて要旨をとらえ、あらすじをまとめている。</li> <li>・登場人物の関係を的確にとらえ、人物相関図に表している。</li> <li>・自分の心に残ったところを、「G o o d（グット）！くるところ」として選び、本文や自分の経験と関連付けて、理由や根拠を明確に示している。</li> <li>・友だちとの交流で考えを再構築し、まとめた自分の考えを推薦リーフレットに生かしている。</li> <li>・薦めたい対象と推薦文の内容が合っている。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の内容の大体をとらえ、あらすじをまとめている。</li> <li>・登場人物の関係をとりえ、人物相関図に表している。</li> <li>・自分の心に残ったところを、「G o o d（グット）くるところ」として選び、理由や根拠を示して自分の考えを表している。</li> <li>・交流で得た友だちの意見の中で、自分がよいと思ったものを取り入れて推薦リーフレットに生かしている。</li> <li>・薦めたい対象を意識して推薦文を書いている。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の内容の大体をとらえているが、あらすじにまとめられていない。</li> <li>・人物相関図に登場人物の関係を表しているが、その関係をとらえられていないところがある。</li> <li>・自分の心に残ったところを、「G o o d（グット）くるところ」として選び、自分の考えを表しているが、理由や根拠を示していない。</li> <li>・交流で得た友だちの意見をヒントにして、自分の考えをまとめようとしているが、どのように推薦リーフレットに生かしているか分からない。</li> <li>・薦めたい対象を意識して推薦文を書いている。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の内容の大体をとらえることができない。</li> <li>・人物相関図に登場人物の関係を表しているが、その関係をとらえられていない。</li> <li>・自分の心に残ったところを、「G o o d（グット）くるところ」として選んでいるが、なぜ心に残ったか自分の考えを表していない。</li> <li>・交流した内容を、推薦リーフレットに生かしていない。</li> <li>・薦めたい対象を決めることができない。</li> </ul>
0	・無解答

\*ここで示した「評価をするときに基とするもの」は、指導者が「単元を貫く言語活動に対する評価」を行うときに活用するものである。指導と評価の一体化を図るためには、児童と指導者がこの内容の観点を共有しておくことが重要である。このことで、児童が単元を貫いたためあてを持つことができる。そのため、第一次で、指導者による「推せんリーフレット」のモデリングの提示をするときに、「推せんリーフレット」を作るにはどんな力が必要か、児童が考えて全体交流し、教師が児童の言葉でまとめる。児童と作る「評価をするときに基とするもの（児童用）（例）」は、各時間の学習課題とし、児童が見通しを持って学習に取り組めるようにする。「評価をするときに基とするもの（児童用）（例）」は、10. 各時間の学習展開例（1） 第1時の展開例（1/11）の中で示す。

\*『「評価をするときに基とするもの」を用いた言語活動に対する評価』に関して、基準に満たない児童に対して、以下のような手立てを行う。

<3に達していない児童に対して>

評価のタイミング	手立ての時期	手立ての内容
第7、8、9時の学習活動中	第7、8、9時の「推せんリーフレット」の内容について考えるとき	<p>⑦どのような人物が出てきたか、どのような出来事があったかを児童とともに確認する。机間指導の中で、確認した内容をどのようにあらすじや人物相関図に書いているかを見て、まとめ方について助言する。</p> <p>⑧選んでいる「G o o d（グット）！くるところ」について、その場面の本文での位置付けや、なぜ心に残ったのかを問いかけ、児童の考えをワークシートに沿って整理する。</p> <p>⑨次時の交流でどんなことをみんなに聞きたいと考えているか確認し、児童の考えを整理する。</p> <p>⑩交流の中で、児童がよいと思った意見はどのようなものか確認し、推薦リーフレットの中でどのように生かすことができ</p>

		るか助言する。
学習後	第10時の「推せんリーフレット」を加筆修正して清書するとき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦文の構成（P. 21 第6時の「推せんリーフレット」の例参照）について助言する。</li> <li>・学習活動中に支援した内容を基に助言する。修正点がある場合は、書き直すように助言する。（なお、修正点は、児童の書いた文章を基に、個に応じた内容になる。）</li> </ul>

<2、1に達していない児童に対して>

評価のタイミング	手立ての時期	手立ての内容
第7、8、9時の学習活動中	第7、8、9時の「推せんリーフレット」の内容について考えるとき	<p>⑦どのような人物が出てきたか、どのような出来事があったかを児童とともに確認するとともに、簡単に整理する。机間指導の中で、確認した内容をどのようにあらすじ、人物関係図に書いているかを見て、書き表し方について助言する。</p> <p>⑧選んでいる「Good（グット）！くるところ」について、なぜ心に残ったのかを問い、児童の考えをワークシートに沿って整理する。</p> <p>⑧次時の交流でどんなことをみんなに聞きたいと考えているか確認し、児童の考えを整理する。</p> <p>⑨交流の中でどのような意見があったか聞き、その中でどの意見を取り入れるとよいか一緒に考える。</p>
学習後	第10時の「推せんリーフレット」を加筆修正して清書するとき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦文の構成（P. 21 第6時の「推せんリーフレット」の例参照）について助言する。</li> <li>・学習活動中に支援した内容を基に助言する。修正点がある場合は、書き直すように助言する。（なお、修正点は、児童の書いた文章を基に、個に応じた内容になる。）</li> </ul>

\*動物と人間の関わりを描いた本を選びにくい児童については、指導者が準備した作品（椋鳩十「カイツブリばんざい」「キジと山バト」「金色の足あと」「あばれグマ金こぶ」「月の輪グマ」「アルプスの猛犬」「黒ものがたり」「愛犬カヤ」など）の中から選ぶよう助言する。

9. 単元計画

(\*評価… [ ] は観点、★は、評価の方法を示す。)

次	時	学習活動	評価	日常的な言語活動
○		<p>「言語生活と学びの接続」</p> <p>◆動物と人間の関わりを描いた本を読む。</p> <p>・児童が関心を持った本について取り上げて話題とし、考えたことや思ったことについて自由に話し合う。(朝の会など)</p>	<p>・動物と人間の関わりを描いた本に関心を持ち、進んで読書しようとしている。[関] ★態度、発言</p>	動物と人間の関わりを描いた本を読む
一	①	<p>◆単元全体の学習課題を設定し、学習の見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>動物と人間の関わりを描いた本の「Good (グット)！くるところ」を推せんしょう。</p> </div> <p>・指導者が取り上げた動物と人間の関わりを描いた本の「推薦リーフレット」の例(モデル)を見て、目指す姿のイメージをつかむ。</p> <p>◆モデルから、単元の各時間の学習課題を作る。</p> <p>・モデルから、どんな力が付けば「推せんリーフレット」が作れるか考え、単元の各時間の学習課題を作る。</p> <p>・単元全体の学習の流れの大体を全体で考える(単元全体の見通しを持つための交流)。</p>	<p>・「推せんリーフレット」の例(モデル)を用いた動物と人間の関わりを描いた本の推薦から、今後の学習や読書への関心を高めている。[関] ★態度、発言、付箋</p> <p>・モデルから各時間の学習課題を考え、単元でどのような学習をしていくか見通しを持つようとしている。[関] ★態度、発言</p>	
二	②	<p>◆「大造じいさんとがん」を読み、あらすじをつかむ。</p> <p>・「時・場・人物」に着目して、物語を八つに場面分けする。</p> <p>・八つの場面には、それぞれどのようなことが書かれているか、短い言葉でまとめる。</p> <p>・八つの場面を、「物語の設定」「三つの出来事」「出来事後」に整理する。</p> <p>・物語のあらすじを簡単にまとめる。</p>	<p>・内容の大体を読み取ることを目的にして、文章の内容を押さえている。[読] ★態度、発言、記述内容</p> <p>・文章を読んで、物語全体について感想を持っている。[関] ★態度、発言</p>	
	③	<p>◆「大造じいさんとがん」を読み、大造じいさんと残雪の関係について考える。</p> <p>・大造じいさんと残雪の関係は、どのような関係だと考えたか、意見を出し合う。</p> <p>・大造じいさんと残雪の関係について考えた理由や根拠を基に、両者の関係がどのように変わっていったかを確認する。</p> <p>・大造じいさんと残雪の関係と人物像を、短い言葉でまとめる。</p>	<p>・登場人物の相互関係を読み取ることを目的にして、文章の内容を押さえている。[読] ★態度、発言、記述内容</p> <p>・文章を読んで、物語全体について感想を持っている。[関] ★態度、発言</p>	
	④	<p>◆「大造じいさんとがん」を、自分にとって「Good (グット)！くるところ」がどこか、考えながら読む。</p> <p>・自分の心に残ったところを選び出し、理由や根拠を明らかにしながら考えをまとめる。</p>	<p>・本文を読んで自分の心に残ったところを選び出し、その部分について理由や根拠を明らかにしながら考えを持つことができる。[読] ★態度、発言、記述内容</p> <p>・自分の心に残ったところについて、どこまで自分が考えられたか振り返り、次時の交流でどんなことを友だちに聞いてみたいか考えようとしている。[関] 付箋</p>	

	⑤	<p>◆自分にとって「Good (グット) !くるところ」やその理由・根拠を交流する(「大造じいさんとがん」の中で、自分の心に残ったところについて、今考えていることを伝え合い、意見や助言を受けて、自分の考えを見つめ直すための交流)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のワークシートを基に、「Good (グット) !くるところ」、その理由や根拠について、友だちに聞いてみたいことを示して交流する。</li> <li>グループで交流した内容を、全体交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の心に残ったところやその理由、根拠について、交流で聞きたいことを明らかにしながら交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 [読] ★態度、発言、記述内容</li> </ul>	
	⑥	<p>◆「Good (グット) !くるところ」をリーフレットに書きまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜその部分を取り上げたか、文章を引用したり要約したりして根拠を明らかにしながら、自分の考えをまとめる。</li> <li>どんな人に薦めたいかを明らかにしながら、「大造じいさんとがん」の推薦文を書く。</li> <li>作者のことや、同じ作者の他の作品を紹介したり、取り上げた部分のイラストを描いたりするなど、創意工夫してリーフレット作りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を読んで自分の心に残ったところを選び出し、その部分について理由や根拠を明らかにしながら考えをまとめることができる。[読] ★記述内容</li> </ul>	
三	⑦	<p>◆動物と人間の関わりを描いた本を読んで文章全体をとらえ、内容の大体をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第二次の学習を生かし、物語のあらすじや登場人物、その相互関係を簡単にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「評価をするときに基とするもの(児童用)」を意識し、進んで動物と人間の関わりを描いた本を読もうとしている。[関] ★態度</li> <li>物語の内容の大体、登場人物の関係を読み取ることを目的にして、文章の内容を押さえている。[読] ★記述内容</li> </ul>	
	⑧	<p>◆動物と人間の関わりを描いた本を、自分にとって「Good (グット) !くるところ」がどこか考えながら読み、自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜその部分を取り上げたか、文章を引用したり要約したりして根拠を明らかにしながら、自分の考えをまとめる。</li> <li>「Good (グット) !くるところ」をリーフレットに下書きする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が選んだ動物と人間の関わりを描いた本を進んで読み、自分の心に残ったところについての考えをまとめようとしている。[関] ★態度</li> <li>自分が選んだ動物と人間の関わりを描いた本について、自分の心に残ったところを選び出し、その部分について理由や根拠を明らかにしながら考えを持つことができる。[読] ★「推せんリーフレット」</li> <li>自分の心に残ったところについて、どこまで自分が考えられたか振り返り、次時の交流でどんなことを友だちに聞いてみたいか考えようとしている。[関] 付箋</li> </ul>	

⑨	<p>◆「Good (グット) くる相談会」を開き、動物と人間の関わりを描いた本の「Good (グット) !くるところ」やその理由・根拠を交流する(自分が選んだ動物と人間の関わりの本の中で、自分の心に残ったところについて今考えていることを伝え合い、意見や助言を受けて、自分の考えを見つめ直すための交流)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「推せんリーフレット」を使って物語のあらすじ、人物の関係性について説明する。</li> <li>・「Good (グット) !くるところ」、その理由や根拠について、友だちに聞いてみたいことを示して交流する。</li> </ul> <p>◆交流したことを基に、考えを再構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の心に残ったところやその理由・根拠について、交流で聞きたいことを明らかにしながら交流し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 〔関〕★態度、発言</li> <li>・意見交流を基に、内容について見つめ直し、自分の考えを広げたり深めたりしている。〔読〕★付箋</li> </ul>	
⑩	<p>◆前時の交流で再構築した自分の考えを基に、リーフレットを加筆修正する。</p> <p>◆作者のことや、同じ作者の他の作品を紹介したり、取り上げた部分のイラストを描いたりするなど、創意工夫して、リーフレット作りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の意見交流を基に、薦せんの内容について見つめ直し、自分の考えをまとめることができる。〔読〕★「推薦リーフレット」</li> <li>・これまでの読書経験を生かし、自分が取り上げた心に残ったところや作者との関連を考えながら、進んでリーフレット作りに取り組むことができる。 〔読〕★態度、「推せんリーフレット」</li> </ul>	
⑪	<p>◆代表児童の「ここがGood (グット) くるでショー!!」を開き、学習のまとめをする(代表児童の推薦文の発表を聞き、確認したり参考にしたりして、学習のまとめをするための交流)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の心に残ったところ、その部分を取り上げた理由や根拠をどのように示してしているか、推薦文を自分の考えを基に書いているか確かめる。</li> </ul> <p>◆代表児童やグループでの発表を基に、本単元の学習を振り返り、自分が考えたことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表者の「推せんリーフレット」を使った本の推薦を聞き、評価したことや考えたことを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。(関)★態度、発言</li> <li>・意見交流を基に、読んだ本の登場人物の気持ちの変化や、自分の考えと関連させて意味付けたこと、目的に応じた考えのまとめ方(薦めたい対象に応じた推薦の仕方)についての考えを広げたり深めたりしている。 〔読〕★態度、付箋</li> <li>・学習経験を生かして、これからも動物と人間の関わりを描いた本の読書を進んでしようとしている。〔関〕★付箋</li> </ul>	

10. 各時間の学習展開例

(1) 第1時の展開例 (1/11)

ア 目標

発表のモデルを見て、モデルのような活動をするためにどんな力を付けていくのか考える活動を通して、単元の学習に対して、興味や見通しを持つようとしている。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	<p>1. 単元全体の学習課題を設定する。</p> <p>動物と人間の関わりを描いた本の「Good (グット) ! くるところ」を推せんしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次での読書経験を想起させ、心に残った動物と人間の関わりを描いた本の名前を発表させ、「Good (グット) ! くるところ」があった本を推薦し合って読書を楽しもうと呼びかけ、児童の意欲を喚起する。</li> <li>自分が薦めたい本を、薦めたい対象を決めて推薦するために作った「推せんリーフレット」を図書室に置き、本の推薦をすることを合わせて伝える。</li> </ul>	
まなぶ	<p>2. 単元の学習について見通しを持つ。</p> <p>(1) 指導者が取り上げた動物と人間の関わりを描いた本の「推せんリーフレット」の例 (モデル) を見て、目指す姿のイメージをつかむ。</p> <p style="text-align: center;"><b>主体的な学び</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの学習の見通しを持たせるために、指導者が取り上げた動物と人間の関わりを描いた本の「推せんリーフレット」の例 (モデル) を示す。</li> <li>「推せんリーフレット」の例では、あらずじ、人物紹介や関連図を提示し、物語の全体をとらえられるようにする。</li> <li>その後、「Good (グット) ! くるところ」の本文、その理由を示す。理由の部分は推薦文の形にする。</li> <li>推薦は自分の伝えたいことを、どんな相手に、どんな内容を推薦するか決めるなど、推薦する対象を意識しながら行うところが、紹介とは違うことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「推せんリーフレット」の例 (モデル) を用いた動物と人間の関わりを描いた本の推薦から、今後の学習や読書への関心を高めている。[関] ★態度、発言、付箋</li> </ul>
いかす	<p>3. モデルから、単元の各時間の学習課題を作る。</p> <p>(1) どんな力が付けば「推せんリーフレット」が作れるか考え、単元の各時間の学習課題を作る。</p> <p>(2) 単元全体の学習の流れの大体を、全体で考える。</p> <p style="text-align: center;"><b>目的のある交流</b></p> <p>4. 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) これからがんばっていきたいことや知りたいことなど、思ったことや考えたことを付箋に書く。</p> <p>(2) 感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルで示した順に、どんな力があれば「推せんリーフレット」がつかれるか、児童の発言を基にしてまとめる。</li> <li>ここでの交流は、単元全体の見通しを持つことが目的であることを伝える。</li> <li>モデルで示した順に、学習課題を単元全体の学習の流れに位置付ける。</li> <li>各時間の学習課題は、それぞれの時間の学習の振り返りを行う際の「評価をするときに基とするもの (児童用)」とする。</li> <li>今後の学習への意欲につながるよう、本時の学習についての感想を発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルから「評価をするときに基とするもの (児童用)」を考え、単元でどのような学習をしていくか見通しを持つようとしている。[関] ★態度、発言</li> </ul>



【授業改善のポイント】

この時間の

主体的な学び

目的のある  
交流

単元全体の見通し  
を持つための交流

単元全体の見通しを持って児童が学習に臨むことは、主体的な学びを喚起する上で重要です。児童に単元を貫いためあてを持たせることで、どのような力を身に付けていけばよいかの分かりやすくなります。この時間では、モデルの「推せんリーフレット」を見ながら全体交流をします。モデルで示したように、「推せんリーフレット」を作るにはどんな力が必要か、児童が考える機会を設け、それを指導者が児童の言葉でまとめ、教室内の見えるところに掲示しておきましょう。児童の言葉でまとめた、この単元で付けたい力は単元の各時間の学習課題として位置付けます。それらは、児童が単元の学習の見通しを児童が持つのに役立ちます。また、それらを各時間の「評価をするときに基とするもの（児童用）」とし、児童はそれに基づいた振り返りを行うことで、自分の学習状況をとらえて本時の学習活動に対する満足感を感じたり、次時の学習のめあてを持ったりすることができます。

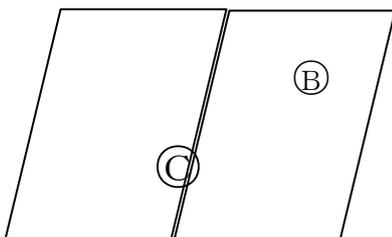
◎各時間の学習課題の設定の例

⑪ 読んだ本や友だちの「推せんリーフレット」をもとに、学習のまとめをしよう。	⑥ 交流したことを基にして、物語の「Good (グット)！くるところ」を、理由や根拠を示しながら推せんしよう。	⑤ 「Good (グット)！くるところ」を交流し、自分の考えを広げたり深めたりしよう。	④ 物語を読んで、自分にとって「Good (グット)！くるところ」がどこか考えよう。	③ 物語を読んで、登場人物の関係をつかもう。	② 物語を読んで、あらすじをつかもう。	大造じいさんごらん  ① ・学習のゴールへの見通しを持つよう。 ・単元の学習計画を立てよう。
	○ B-3	B-2	B-1	A-2	A-1	
	⑩	⑨	⑧	⑦		
	〃	〃	〃	〃		
読んだ本や友だちの「推せんリーフレット」を使った本の推せん	○ B-3	B-2	B-1	A-2	A-1	自分が選んだ動物と人間のかかわりを描いた本

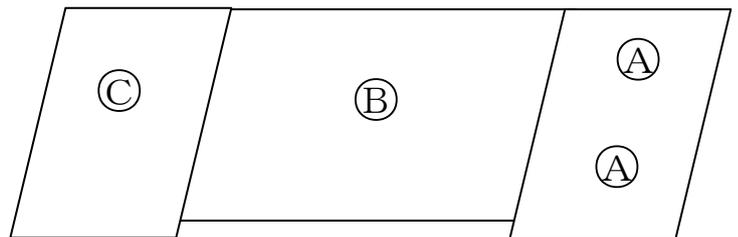
動物と人間の関わりを描いた本の「Good (グット)！くるところ」を推せんしよう。

アルファベットは、リーフレットでの位置です。また、B-1などの数字は、Bの部分に取り組む回数を示しています。

〈外側〉



〈内側〉



(2) 第2時の展開例 (2/11)

ア 目標

全文を通読し、あらすじをとらえることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	<p>1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(例) 物語を読んで、あらすじをつかもう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返り (付箋) を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。单元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。</li> <li>第1時に児童の言葉でつくった「評価をするときに基とするもの (児童用)」を確認し、本時の学習課題とする。</li> </ul>	
まなぶ	<p>2. 全文を音読し、物語を八つに場面分けする。</p> <p>(1) 全文を、段落ごとに分担しながら音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>段落番号を確認する。</li> </ul> <p>(2) 「時・場・人物」に着目し、文章が八つの場面に分かれていることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>八つの場面を、段落番号を用いて整理する。</li> </ul> <p>(3) 八つの場面には、それぞれどのようなことが書かれているか、短い言葉でまとめる。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0; display: inline-block;">全体を把握して読む</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>八つの場面のまとめ (例)</p> <p>①…「物語の設定」</p> <p>②…つりばりの計略 (一羽のがん捕獲)</p> <p>③…つりばりの計略 (翌日、捕獲失敗)</p> <p>④…たにしの計略 (つりばりの翌年、がんの群れが集まる)</p> <p>⑤…たにしの計略 (翌朝、捕獲失敗)</p> <p>⑥…おとりの計略 (たにしの翌年、計略を思いつき、準備)</p> <p>⑦…おとりの計略 (翌朝、はやぶさと残雪の戦い、捕獲しなかった)</p> <p>⑧…「出来事の後」</p> <p>※2～7が「三つの出来事」</p> </div> <p>(4) 八つの場面を、「物語の設定」「三つの出来事」「出来事の後」に整理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誤読部分について訂正を加える。</li> <li>段落番号の間違いがないよう確認する。</li> <li>前書きのある光村図書の教科書では、その内容を確認しておく。</li> <li>場面の始めに漢数字が入っているが、「時・場・人物」に注目すると、八つの場面分けできることを押さえる。</li> <li>児童から出された意見を基にして整理しまとめる。</li> <li>「三つの出来事」には、大造じいさんの計略が描かれていることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容の大体を読み取ることを目的として、文章の内容を押さえている。</li> <li>[読] ★態度、発言、記述内容</li> </ul>
いやす	<p>3. 物語の感想を全体で紹介し合い、どんなことが描かれた内容なのかを簡単にまとめる。</p> <p>4. 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>付箋に学習して分かったことや感想などを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんなことが描かれた内容なのか、児童の言葉で簡単にまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">(例) 三度の戦いを通して、がんの頭領である残雪に対する大造じいさんの気持ちが変化していく話。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>この時間にまとめたリーフレットの「あらすじ」は、次の時間以降に学びを進める中で、自分の考えに基づいて加筆修正してよいことを伝える。</li> <li>何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んで、物語全体について感想を持っている。[関]</li> <li>★態度、発言</li> </ul>



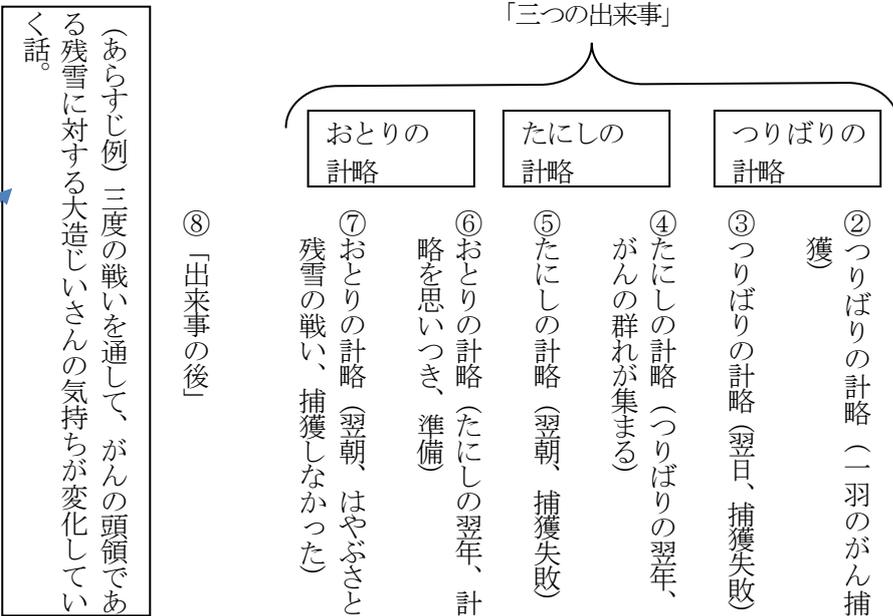
【授業改善のポイント】

この時間の

全体を把握して読む

この時間の「全体を把握して読む」では、物語全体をとらえ、内容と登場人物の関係をおおまかにつかむことが目的です。まとまりごとに番号がついているので、四つのまとまりをつかむのは容易にできると考えられます。ここでは、大体をつかむのが目的なので、具体的な内容に深入りはせず、どのようなことが書かれているかを出させ、指導者が児童の言葉を用いてまとめます。物語の全体構成をとらえておくことにより、大造じいさんの気持ちがどのように変化していくのか、とらえやすくなります。

- ①「物語の設定」  
⇒ (光村図書 P.103 L4~P.104 L6、東京書籍 P.64 L1~P.65L1)
- ②つりばりの計略 (一羽のがん捕獲)  
⇒ (光村図書 P.104 L7~P.106 L4、東京書籍 P.65L2~P.66 L6)
- ③つりばりの計略 (翌日、捕獲失敗)  
⇒ (光村図書 P.106 L5~P.107 L7、東京書籍 P.66 L7~P.67 L7)
- ④たにしの計略 (つりばりの翌年、がんの群れが集まる)  
⇒ (光村図書 P.107 L8~P.108 L9、東京書籍 P.66 L8~P.68 L8)
- ⑤たにしの計略 (翌朝、捕獲失敗)  
⇒ (光村図書 P.108 L10~P.110 L6、東京書籍 P.68 L9~P.69 L12)
- ⑥おとりの計略 (たにしの翌年、計略を思いつき、準備)  
⇒ (光村図書 P.111 L1~P.112 L13、東京書籍 P.69 L13~P.71 L8)
- ⑦おとりの計略 (翌朝、はやぶさと残雪の戦い、捕獲しなかった)  
⇒ (光村図書 P.112 L14~P.117 L6、東京書籍 P.71 L9~P.75 L7)
- ⑧「出来事の後」  
⇒ (光村図書 P.118 L1~P.119 L14、東京書籍 P.75 L8~P.76 L13)



① 「物語の設定」

② つりばりの計略 (一羽のがん捕獲)

③ つりばりの計略 (翌日、捕獲失敗)

④ たにしの計略 (つりばりの翌年、がんの群れが集まる)

⑤ たにしの計略 (翌朝、捕獲失敗)

⑥ おとりの計略 (たにしの翌年、計略を思いつき、準備)

⑦ おとりの計略 (翌朝、はやぶさと残雪の戦い、捕獲しなかった)

(あらずし例) 三度の戦いを通して、がんの頭領である残雪に対する大造じいさんの気持ちが変化していく話。

児童の言葉を用いて、例のようにまとめますが、読み進める中で、加筆修正してよいことを児童に伝えます。

(3) 第3時の展開例 (3/11)

ア 目標

全文を通読し、登場人物の相互関係をとらえることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	<p>1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(例) 物語を読んで、登場人物の関係をつかもう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返り（付箋）を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。单元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。</li> <li>第1時に児童の言葉でつくった「評価をするときに基とするもの（児童用）」を確認し、本時の学習課題とする。</li> </ul>	
まなぶ	<p>2. 全文を音読し、大造じいさんと残雪の関係について考える。</p> <p>(1) 大造じいさんと残雪の関係は、どのような関係だと考えたか、意見を出し合う。</p> <p>(2) 大造じいさんと残雪の関係について考えた理由や根拠を基に、両者の関係がどのように変わっていったかを確認する。</p> <p>(3) 大造じいさんと残雪の関係と人物像を、短い言葉でまとめる。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">全体を把握して読む</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大造じいさんと残雪の関係について考えたことを、理由や根拠を明らかにしながら意見を出し合う。</li> <li>理由や根拠を基に、両者の関係は一定でなく、変化していることに気付かせる。</li> <li>根拠となる叙述を基にしながら、両者の関係の変化の様子を簡単にまとめる。</li> <li>児童から出された意見を基にして整理しまとめる。</li> </ul> <p>・この時間にまとめたリーフレットの「人物相関図」は、次の時間以降に学びを進める中で、自分の考えに基づいて加筆修正してよいことを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の相互関係を読み取ることを目的にして、文章の内容を押さえている。[読]</li> <li>★態度、発言、記述内容</li> </ul>
いかす	<p>3. 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>付箋に学習して分かったことや感想などを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んで、物語全体について感想を持っている。[関]</li> <li>★態度、発言</li> </ul>



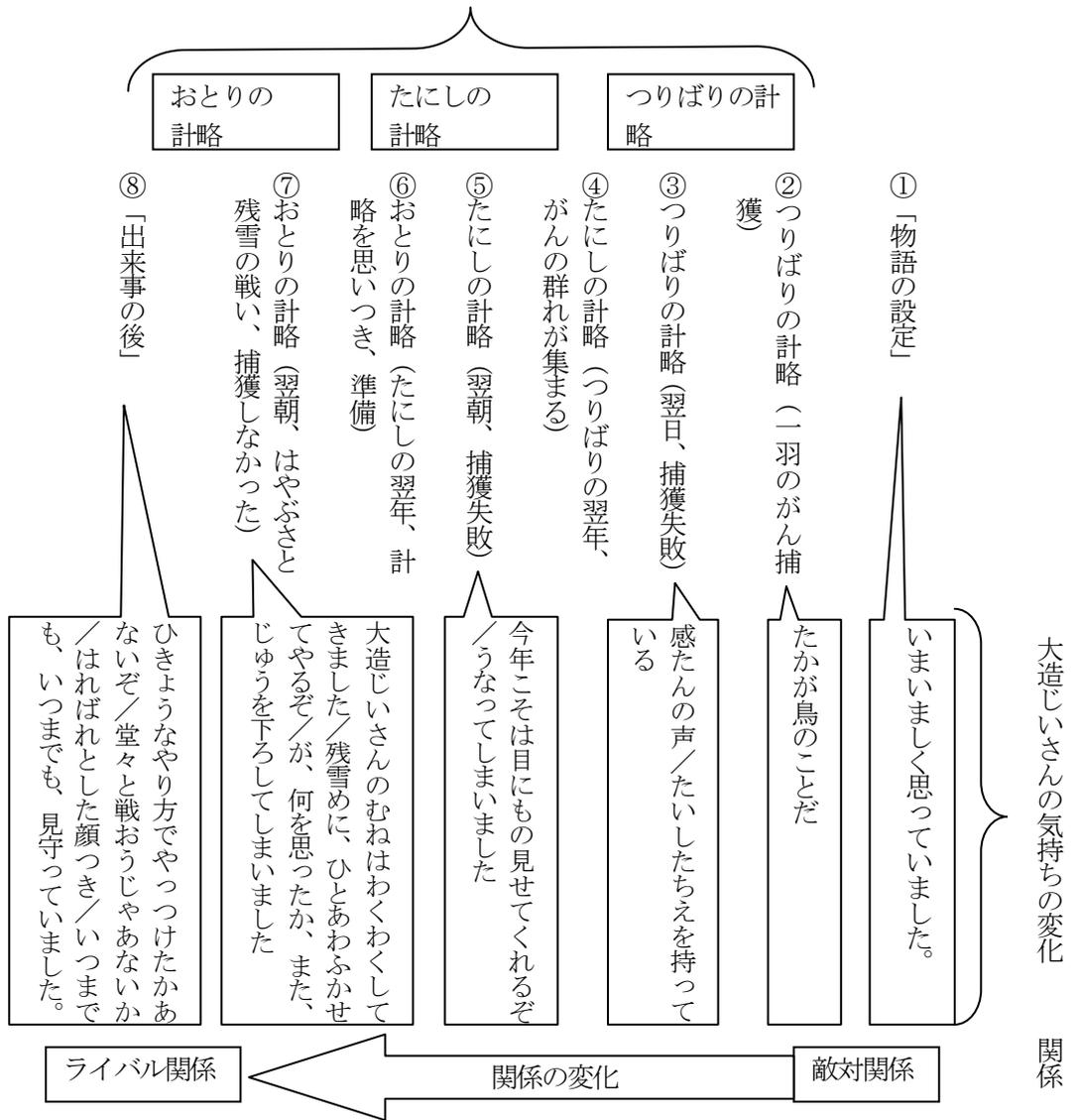
【授業改善のポイント】

この時間の

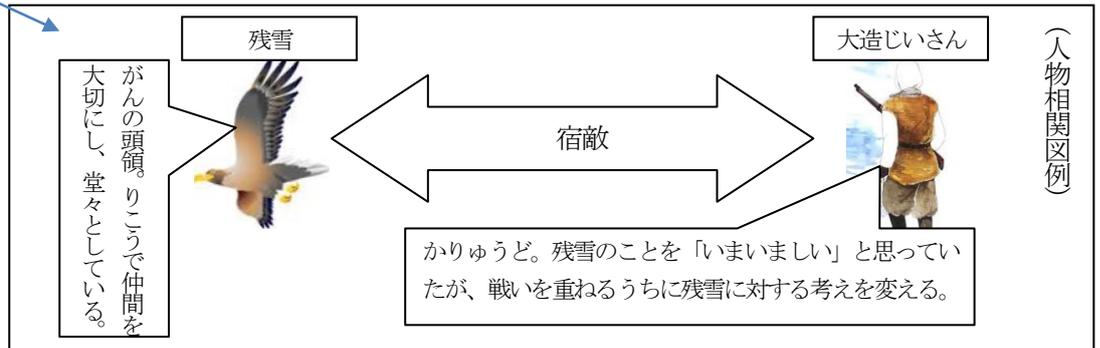
全体を把握して読む

この時間の「全体を把握して読む」では、物語全体をとらえ、登場人物の関係をつかむことが目的です。大造じいさんと残雪の関係は、物語の中で変化しており、一定ではありません。両者の関係について、理由や根拠を明らかにしながら話し合うことで、変化していく両者の関係について、児童が気付いていくことが期待できます。この両者の関係の変化は、主に視点人物である大造じいさんの気持ちの変化が原因です。戦いを繰り返すうちに、残雪に対する認識が変化していくことで、両者の関係が変化していったと考えられます。ここで、視点人物が大造じいさんだと気付くと、自分にとって「Good (グット) ! くるところ」は、大造じいさんと残雪の、どちらに寄り添って考えたものなのか意識できるようになることが期待できます。

「三つの出来事」



児童の言葉を用いて、例のようにまとめますが、読み進める中で、加筆修正してよいことを児童に伝えます。



(4) 第4時の展開例 (4/11)

ア 目標

全体を把握して読み、心に残ったところについて、理由や根拠を明らかにしながら自分の考えを持つことができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	<p>1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 物語を読んで、自分にとって「Good (グット) !くるところ」がどこか考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返り (付箋) を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。</li> <li>・第1時に児童の言葉でつくった「評価をするときに基とするもの (児童用)」を確認し、本時の学習課題とする。</li> </ul>	
まなぶ	<p>2. 「大造じいさんとがん」を、自分にとって「Good (グット) !くるところ」がどこか、考えながら読む。</p> <p>(1) 「Good (グット) !くるところ」とは、どんなところが確認する。</p> <p>(2) 自分の心に残ったところを選び出し、理由や根拠を明らかにしながら考えをまとめ、リーフレットに下書きする。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0; display: inline-block;">全体を把握して読む</div> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0; display: inline-block; margin-top: 10px;">自分の考えを明確にする場面</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Good (グット) !くるところ」とは、物語の中で心に残ったところのことであり、自分の知識や経験を基に、登場人物の行動や気持ちの変化、それらを表す情景などの表現や、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す叙述に着目するよう伝える。</li> <li>・自分の心に残ったところを選び出し、本文中から根拠となる部分を引用したり要約したりするよう指導する。</li> <li>・理由や根拠をまとめる際、本文と関連するところや、自分の知識や経験と関連するところを整理して考えをまとめられるよう、児童の実態に応じてワークシートを活用させる。</li> <li>・「登場人物の性格や気持ちの変化」「文章の内容と自分の経験とを結び付ける」など、児童が考えを持ちやすくなるように既習事項を基にしたヒントを提示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の言っていること、していること、性格、気持ちがチェンジ!</li> <li>・ここが一番〇〇</li> <li>・〇〇なときに、同じ気持ちになったこと、あるある!</li> <li>・〇〇について、考えるきっかけになった!</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは、「Good (グット) くるところ」を一つに絞る必要はなく、いくつか取り上げてよいことを伝える。</li> <li>・本時は下書きであり、次時の交流で加筆修正することをあらかじめ伝えておく。</li> <li>・活動の途中等で、児童の実態に合わせ、第1時で用いたモデリングのワークシートを活用し、書き方を指導する (ヒントコーナーとして掲示する、全体で確認する、など)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を読んで自分の心に残ったところを選び出し、その部分について理由や根拠を明らかにしながら考えを持つことができる。[読] ★態度、発言、記述内容</li> </ul>
いかす	<p>3. 学習のまとめをし、本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りをする前に、次時の交流でどんなことを聞きたいと考えているか、何人かの児童に発表させる。</li> <li>・付箋に学習して分かったことや感想、次時の交流で聞いてみたいことなどを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の交流が、「Good (グット) !くるところ」の理由の部分を中心にしたものになるよう、どんなことを聞いてみたいと考えているか何人かの児童に紹介させて全体で確認し、質問の方向付けをする。</li> <li>・交流で、どんなことを聞いてみたいか事前に考え、付箋に書いておくよう伝える。</li> <li>・何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の心に残ったところについて、どこまで自分が考えられたか振り返り、次時の交流でどんなことを友だちに聞いてみたいか考えようとしている。[関] 付箋</li> </ul>



### 【授業改善のポイント】

この時間の

全体を把握して読む

自分の考えを明確にする場面

ここでは、物語の中で、読み手である自分にとって「Good (グット) ! くるところ」がどこなのかを考えながら読み、そのことについての考えをまとめます。学習指導要領では、高学年では文章全体に対応することが求められており、「Good (グット) くるところ」の場面を取り出すだけでなく、その理由や根拠を文章全体と関連させて示すことがとても大切です。このことが全体を把握して読むことであり、物語の中で心に残ったところと、他の言葉や表現を結び付けることによって、考えを深めることにつながります。

例えば、⑦場面の「大造じいさんが手をのばしても、残雪は、もう、じたばたさわぎませんでした。最期のときを感じて、せめて、頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしませんでした。」という、大造じいさんの気持ちの変化の部分を「Good (グット) ! くるところ」として取り上げた場合、大造じいさんの気持ちの変化として、次のような部分などを根拠として引用・要約する必要があります。

(取り上げる部分例)

- ① いましく思っていました。
- ② たかが鳥のことだ、一晩たてば、またわすれてやってくるにちがいない
- ③ 感たんの声/たいしたちえを持っている
- ④ 今年こそは目にも見せてくれるぞ/うなっていました
- ⑤ 大造じいさんのむねはわくわくしてきました/残雪めに、ひとあわふかせてやるぞ/が、何と思ったか、また、じゅうを下ろしてしまいました
- ⑥ じいさんは、おりのふたをいっぱいにかけてやりました。/「おうい、がんの英ゆうよ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきょうなやり方でやつけたかあないぞ。なあ、おい、今年の冬も、仲間を連れてぬま地へやってこいよ。そうして、おれたちは、また、堂々と戦おうじゃあないか。」/大造じいさんは、花の下に立って、こう、大きな声で、がんによびかけました。そうして、残雪が北へ北へと飛び去っていくのを、はれはれとした顔つきで見守っていました。/いつまでも、いつまでも、見守っていました。

また、物語の中で心に残るところは、児童の知識や経験とリンクする部分があるところです。「似たような経験がある」「あんな風になりたい」「今、考えていることや取り組んでいることのヒントになった」など、自分の知識や経験とどのようにつながっているのか、意識して考えさせます。そのことで、「Good (グット) くるところ」と児童の考えが結びつき、作品に対する考えが深まります。児童の実態に応じて、既習事項を基にしたヒントを提示すると、考えやすくなります。

### ◎第4時のワークシートの例

自分の生活とつなげて考えるところです。  
【ヒント】を参考にして考えさせましょう。①②をつなげて考えられる児童には、数字を矢印などでつなげて考えてもよいことを伝えます。

なぜ、「Good (グット) ! くるところ」がここなのかを推薦しようと思うと、全体中での位置付けを示す必要が自然と出てきます。  
ここには、全体中での本文中から根拠となる部分を引用したり要約したりして、考えたことを書きます。  
「推薦リーフレット」を書くために考えをまとめるものとして活用します。全体交流をして、「なるほど!」と思ったことや新たに浮かんだ考えを、書き加えていくようにします。  
引用、要約についてはくわしくは次時の【授業改善のポイント】でふれますが、児童の実態に応じて、引用の仕方(引用部には「」を用いる)など、書き方については指導が必要です。

**2あ**

「習い事のとき、同じきもちになったこと、あるある!」メモ

・習い事のこと

・練習試合をするたびに、相手チームの友だちのよいところが見えてくる!

大造じいさん「よしよし!」

---

**1あ**

★Good(グット)！くるところは、ここだ!

大造じいさんが手をのばしても、残雪はもう、じたばたさわぎませんでした。最期のときを感じて、せめて、頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしませんでした。

「大造じいさんの気持ち、チェンジ!」メモ

残雪の仲間を思う気持ちいげんを保とうとする姿が、大造じいさんの気持ちを変えた!

---

**1い**

★その場面は、物語全体の中で、どんな場面?

・⑦場面↓「いまいまし!」

・二つの計略「残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」

・おとりを救う↓頭領らしい

・命があふなくなっても、「頭領らしい、堂々たる態度!」

「大造じいさんと残雪の関係、チェンジ!」メモ

はじめは、残雪のことを「いまいまし!」と思っていた大造じいさんだけど、自分がおとりに使ったがんと助けようとするすがたを見てから、いげんある残雪と対面して、「強く心打たれ!」たんだと思う。

なぜ「Good (グット) ! くる」のか、文章から理由や根拠を考えるところです。  
【ヒント】を参考にして考えさせましょう。

(5) 第5時の展開例 (5/11)

ア 目標

心に残ったところについて、理由や根拠を明らかにしながら交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	<p>1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>(例)「Good (グット)！くるところ」を交流し、自分の考えを広げたり深めたりしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返り(付箋)を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。单元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。</li> <li>第1時に児童の言葉でつくった「評価をするときに基とするもの(児童用)」を確認し、本時の学習課題とする。</li> </ul>	
まなぶ	<p>2. 自分にとって「Good (グット)！くるところ」やその理由・根拠を交流する。</p> <p style="text-align: center;">目的のある交流</p> <p>(1) 自分のワークシートを基に、「Good (グット)！くるところ」について交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四人程度をベースにしたグループで行う。</li> <li>「Good (グット)！くるところ」、その理由や根拠について、友だちに聞いてみたいことを示して交流する。</li> </ul> <p>(2) グループで交流した内容を、全体交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここでの交流は、他の児童の考えを聞くことによって、自分の考えを再構築することが目的であることを伝える。</li> <li>ワークシートを基に、「Good (グット)！くるところ」と、その理由や根拠について交流させる。</li> <li>交流で、どんなことを聞いてみたいか事前にお考えしておくようにさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>「Good (グット)！くるところ」と、その理由・根拠を書いている児童 ⇒自分とは違う叙述のよさに気付いている児童や、同じところを選んでいても違う観点からの意見を書いている児童の意見を聞く。</li> <li>「Good (グット)！くるところ」を選んでいるが、その理由がはっきりしていない児童 ⇒選んだ部分について、グループの児童はどう考えているか意見を聞く。</li> <li>「Good (グット)！くるところ」を、どれにしようか迷っている児童 ⇒まよっているところを示して、グループの児童はどれがグットくるところなのか、意見を聞く。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の心に残ったところやその理由、根拠について、交流で聞きたいことを明らかにしながら交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</li> </ul> <p>[読] ★態度、発言、記述内容</p>
いかす	<p>3. 学習のまとめをし、本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>付箋に学習して分かったことや感想などを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。</li> </ul>	



### 【授業改善のポイント】

この時間の

目的のある  
交流

「大造じいさんとガン」の中で、自分の心に残ったところについて、今考えていることを伝え合い、意見や助言を受けて、自分の考えを見つめ直すための交流

ここでは、「Good (グット) ! くるところ」はどこか、その根拠となる部分と、自分の知識や経験と関連してどのように考えたかを交流します。「Good (グット) ! くるところ」の違い、同じところを取り上げていても根拠とする部分や、知識や経験との関連の違いを交流します。それらに気付くことによって、考えを広げ深めることがねらいです。また、そういった気づきを基にして再度自分の考えを再構築することも、考えを広げ深めることにつながります。

「Good (グット) ! くるところ」として児童が挙げる場面として、⑦の残雪がおとりのガンを救おうとしてハヤブサと戦う様子を見て、大造じいさんがじゅうを下ろす場面、同じく⑦の戦いの後、大造じいさんと残雪が対面する場面、⑧の大造じいさんが残雪を逃がした後、見守る場面が考えられます。

交流の前には、児童にこの時間の交流の目的を伝えます。ただ、学級全体の交流の目的は一つでも、それに対する一人ひとりの児童の目的は違ってきます。それまでの学びの状況が違うからです。それぞれの児童に、自分の学習状況に合った目的を持って交流に臨めるように支援していく必要があります。

児童の学習状況は、大きく三つに分けられると考えられます(下の図参照)。

### 児童の学習状況

「Good (グット) ! くるところ」と、その理由や根拠を書いている



指導者の声かけ (例)

「あなたとは違うところを『Good (グット) ! くるところ』にしている子がいるから、そういう子の意見を聞いてみよう。」

「わけを書くとき、ちがう理由を書いていたたり、ちがうところを根拠にしたり子がいるから、意見を聞いて考えを広げよう。」



児童の質問 (例)

「私は〇〇のところを『Good (グット) ! くるところ』として推せんしたいと思います。そのわけは、～です。私がみんなに聞いてみたいことは、【みんなだったら、どこがグットとくるか・私が選んだ『Good (グット) ! くるところ』を読んでどう思ったか・みんなだったら、どんな人に推せんするか】です。」

### 児童の学習状況

「Good (グット) ! くるところ」を選んでいるが、その理由がはっきりしていない



指導者の声かけ (例)

「ここまでは見付けられたけど、ここからはまだはっきりしないから、意見を聞かせて!と、どんどん友だちに聞いてみよう。」



児童の質問 (例)

「私は〇〇のところがいいと思うんだけど、その理由が自分の中ではっきりしていないので、みんなの意見を聞かせてください。」

### 児童の学習状況

「Good (グット) ! くるところ」を、どれにしようか迷っている



指導者の声かけ (例)

「まよっているところを示して、その人ならどれが『Good (グット) ! くるところ』になるのか、聞いてみよう。」



児童の質問 (例)

「僕は『Good (グット) ! くるところ』を①にするか②にするかまよっています。みんなの意見を聞かせてください。」

(6) 第6時の展開例 (6/11)

ア 目標

全体を把握して読み、自分の心に残ったところについて、理由や根拠を明らかにして自分の考えをまとめることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。  (例) 交流したことを基にして、物語の「Good (グット) !くるところ」を、理由や根拠を示しながら推せんしよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返り (付箋) を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。</li> <li>第1時に児童の言葉でつくった「評価をするときに基とするもの (児童用)」を確認し、本時の学習課題とする。</li> </ul>	
まなぶ	2. 「Good (グット) !くるところ」をリーフレットに書きまとめる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜその部分を取り上げたか、文章を引用したり要約したりして根拠を明らかにしながら、自分の考えをまとめる。</li> <li>どんな人に薦めたいかを明らかにしながら、「大造じいさんとがん」の推薦文を書く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">全体を把握して読む</div> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">自分の考えを明確にする場面</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>椋鳩十の作品は、人間にとって大切な問題がとらえられていることを気付かせ、自分の知識や経験と関係付けて考えるよう助言する。</li> <li>前時の学習を振り返り、物語のどの部分を「Good (グット) !くるところ」として取り上げるか決めるように伝える。</li> <li>第1時で示したモデリングを参考にして書くよう助言する。</li> <li>どんな人に薦めたいかは、取り上げたところについての自分の考えに基づいて、児童自身が決めるよう伝える。</li> <li>必要に応じて、引用や要約の仕方を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を読んで自分の心に残ったところを選び出し、その部分について理由や根拠を明らかにしながら考えをまとめることができる。</li> </ul> <p>[読] ★記述内容</p>
まなぶ	3. 作者のことや、同じ作者の他の作品を紹介したり、取り上げた部分のイラストを描いたりするなど、創意工夫してリーフレット作りをする。  4. 学習のまとめをし、本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>付箋に学習して分かったことや感想などを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>並行読書など、これまでの読書経験を生かし、「推せんリーフレット」の◎の部分を書くよう指導する。</li> <li>あらすじや関連図などの部分も、書き加えてよいことを伝える。</li> <li>推薦の部分ができていない場合は、引き続き推薦の部分を書くよう伝える。</li> <li>何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの読書経験を生かし、自分が取り上げた心に残ったところや作者との関連を考えながら、進んでリーフレット作りに取り組むことができる。</li> </ul> <p>[関] ★態度、記述内容</p>



【授業改善のポイント】

この時間の

全体を把握して読む

自分の考えを明確にする場面

椋鳩十は、動物というものに姿を借りて生きることの意味や大切なものを考えたと言っています。だからこそ人の心に残り、長く読み続けられていると考えられます。児童の心に響いた「Good (グット) !くるところ」にも、私たちの生活につながる部分があるはずで、児童の実態に応じて、いくつかの例 (尊敬、ライバル同士の友情、相手のイメージは付き合いの中で変わる、など) を全体で考え、イメージしやすくしてから活動に入るのもよい方法です。そうすることで、推薦する対象を決めやすくなります。

推薦文を書く活動では、第1時で示したモデリングを使って、具体的に指導していきます。

推薦の理由には、引用や要約をしながら物語全体の中での「Good (グット) !くるところ」

の位置付けを書いていきます。引用も要約も中学年の指導事項ですので、児童の実態に応じて、ヒントとして与えていきましょう。

【引用】⇒本や文章の一説や文、語句などを引いてくることです。児童の実態に応じて、かぎ(「」)でくくることなど、引用の仕方を指導し、引用したことについて、自分の思いや考えを書くことなども指導していきましょう。

【要約】⇒目的や必要に応じて、話や本、文章を短くまとめることです。元の文章の構成や表現をそのまま生かして短くまとめる要約と、自分の言葉で短くまとめる要約とがあります。要約は、要約するときの目的や必要に応じて元の文章のどの部分を取り上げるかが変わってきます。

◎第6時の「推せんリーフレット」の例  
〈内側〉

〈外側〉

【「つついはじめの印象をひきずってしまっ  
推せんします！」  
一人に

本文

大造じいさんが手をのばして  
も、残雪は、もう、じたばたさ  
ぎませんでした。最期のときを感  
じて、せめて、頭領としてのいげ  
んをきずつけまいと努力している  
ようでもありました。大造じいさ  
んは、強く心を打たれて、ただの  
鳥に対してしているような気がしま  
んでした。

【推薦の対象を示す部分】  
相手意識が高まります。

理由

私がこの本で「Good (グッ  
と)！くるところ」は、大造じ  
いさんがおとりに使ったがんと  
ようとして傷ついた残雪と、  
じいさんが対面していること  
です。  
大造じいさんは、はじめ、残雪  
のことを「たかが鳥」とみくびっ  
ていました。しかし、戦いを通し  
て残雪の利口さ、仲間を大切にす  
る気持ち、いげんある態度にふれ、  
見方を変えていきます。  
私も、バレーの練習試合をする  
たびに、相手チームの友だちのよ  
いところがたくさん見つかりま  
す。  
接する機会が増えれば増え  
ど、新たな一面を発見して、相  
手への見方は変わっていくのだな  
あ、と思いました。  
つついはじめの印象をひきず  
ってしまっ人！ぜひ読んでみてく  
ださい。

【自分の生活とつなげて考えるところ】

児童の知識や経験と関連させた部分で  
す。「Good (グッ)！くるところ」  
と児童の知識や経験が結びつき、作品に  
対する考えが深まります。ワークシート  
では、②と対応している部分です。

【なぜ「Good (グッ)！くる」のか、文章から理  
由や根拠を考えるとところ】

本文からの引用、要約をして根拠となる部分を示すこ  
とは、「Good (グッ)！くるところ」と文章の他の  
言葉や表現と結び付けることになり、考えが深まります。  
ワークシートでは、①と対応している部分です。

(7) 第7時の展開例 (7/11)

ア 目標

自分が選んだ動物と人間の関わりを描いた本を読み、大体的内容と登場人物の相互関係をとらえることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	<p>1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>(例) 自分が選んだ動物と人間の関わりを描いた本を読んで、おおまかな内容と登場人物の関係をつかもう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返り(付箋)を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。</li> <li>並行読書など、今まで読んだ動物と人間の関わりを描いた本の中から、みんなに推薦したい本を取り上げることを伝える。</li> <li>第1時に児童の言葉でつくった「評価をするときに基とするもの(児童用)」を確認し、本時の学習課題とする。</li> <li>これから作る「推薦リーフレット」は、図書室に置くことを伝える。</li> </ul>	
まなぶ	<p>2. 「推せんリーフレット」の「評価をするときに基とするもの(児童用)」を確かめる。</p> <p>&lt;児童と確認する「評価をするときに基とするもの(児童用)」の例&gt;</p> <p>㉑—1…物語を読んで、おおまかな内容をつかもう。</p> <p>㉑—2…物語を読んで、登場人物の関係をつかもう。</p> <p>㉒—1…物語を読んで、自分にとって「Good(グット)！くるところ」がどこか考えよう。</p> <p>㉒—2…「Good(グット)！くるところ」を交流し、自分の考えを広げたり深めたりしよう。</p> <p>㉒—3…交流したことを基にして、「Good(グット)！くるところ」を、理由や根拠を示しながら推せんしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1時で用いた「推せんリーフレット」の例(モデル)を提示しながら、「評価をするときに基とするもの(児童用)」を確認することで、第二次で身に付けた読む力を自覚的に活用できるようにさせる。なお、「評価をするときに基とするもの(児童用)」として示すのは、第1時に児童の言葉でまとめたものにする。</li> <li>「評価をするときに基とするもの(児童用)」を意識しながら動物と人間の関わりを描いた本を読むよう助言する。</li> <li>本時は、主に㉑—1、㉑—2に取り組むことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「評価をするときに基とするもの(児童用)」を意識し、進んで動物と人間の関わりを描いた本を読もうとしている。[関] ★態度</li> </ul>
いかす	<p>3. 物語のあらすじや登場人物、その相互関係を簡単にまとめる。</p> <p>全体を把握して読む</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p> <p>4. 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>付箋に学習して分かったことや感想などを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次の学習やモデリングを参考にしながら、「推せんリーフレット」に書くよう助言する。</li> <li>推薦したい本は、並行読書等で読んだ経験のあるものから選ぶように伝える。</li> <li>同じ物語を読んでいる児童同士で、適宜相談してもよいことを伝える。</li> <li>何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語の内容の大体、登場人物の関係を読み取ることを目的として、文章の内容を押さえている。[読] ★記述内容</li> </ul>



【授業改善のポイント】

この時間の

全体を把握して読む

自分の考えを明確にする場面

ここでは、「評価をするときに基とするもの(児童用)」を意識しながら、自分で取り上げた動物と人間の関わりを描いた本を読みます。並行読書等での読書経験から選び出した本をじっくりと読み、物語のあらすじや登場人物、その相互関係をとらえる時間です。相関図を書くとき、出てくる人物や動物全てを図に書くと、複雑で分かりにくい図になることがあります。児童の考えの中で、物語の中心となってくる人物、動物について関係をまとめるよう助言しましょう。

読む目的が変わると、文章に接する視点が変わっていきます。この時間は、「評価をするときに基とするもの(児童用)」の内の、㉑—1、㉑—2が主な目的になることを伝えておきましょう。㉒—1は第8時、㉒—2は第9時、㉒—3と㉓は第10時に主に行うという見通しを持って、「推せんリーフレット」作りを進められるように支援します。

(8) 第8時の展開例 (8/11)

ア 目標

自分が選んだ動物と人間の関わりを描いた本の、心に残ったところについて、理由や根拠を明らかにしながら自分の考えを持つことができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	<p>1. 本時の学習課題を知り、学習の見通しを持つ。</p> <p>(例) 物語を読んで、自分にとって「Good (グット) ! くるところ」がどこか考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返り (付箋) を、意欲付けとなるコメントとともに何人が紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。</li> <li>第1時に児童の言葉でつくった「評価をするときに基とするもの (児童用)」を確認し、本時の学習課題とする。</li> </ul>	
まなぶ	<p>2. 「推せんリーフレット」の「評価をするときに基とするもの (児童用)」を再確認する。</p> <p>&lt;児童と確認する「評価をするときに基とするもの (児童用)」の例&gt;</p> <p>④-1…物語を読んで、おおまかな内容をつかもう。</p> <p>④-2…物語を読んで、登場人物の関係をつかもう。</p> <p>⑤-1…物語を読んで、自分にとって「Good (グット) ! くるところ」がどこか考えよう。</p> <p>⑤-2…「Good (グット) ! くるところ」を交流し、自分の考えを広げたり深めたりしよう。</p> <p>⑤-3…交流したことを基にして、「Good (グット) ! くるところ」を、理由や根拠を示しながら推せんしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「評価をするときに基とするもの (児童用)」を再確認し、第二次で身に付けた読む力を自覚的に活用できるようにさせる。</li> <li>前時にモデルを示して確認しているので、本時では児童が⑤-1の活動をする時間を多く確保するよう配慮する。</li> </ul>	<p>自分が選んだ動物と人間の関わりを描いた本を進んで読み、自分の心に残ったところについての考えをまとめようとしている。[関] ★態度</p>
いかに	<p>3. 自分が選んだ動物と人間の関わりを描いた本を、自分にとって「Good (グット) ! くるところ」がどこか考えながら読み、自分の考えをまとめる。</p> <p>・自分の心に残ったところを選び出し、理由や根拠を明らかにしながら考えをまとめ、「Good (グット) ! くるところ」をリーフレットに下書きする。</p> <p style="text-align: center;">全体を把握して読む</p> <p style="text-align: center;">自分の考えを明確にする場面</p> <p>4. 本時の学習を振り返る。</p> <p>・振り返りをする前に、次時の交流でどんなことを聞きたいと考えているか、何人かの児童に発表させる。</p> <p>・付箋に学習して分かったことや感想、次時の交流で聞いてみたいことなどを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導を行い、自分の心に残ったところを選び出し、本文中から根拠となる部分を引用したり要約したりする活動を個別に支援・指導する。</li> <li>理由や根拠をまとめる際、本文と関連するところや、自分の知識や経験と関連するところを整理して考えをまとめられるよう、児童の実態に応じて第二次で用いたワークシートや既習事項を基にしたヒントを活用させる。</li> <li>本時は下書きであり、次時の交流で加筆修正することをあらかじめ伝えておく。</li> <li>交流で、どんなことを聞いてみたいか事前に考え、付箋に書いておくよう伝える。</li> <li>何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。</li> </ul>	<p>自分が選んだ動物と人間の関わりを描いた本について、自分の心に残ったところを選び出し、その部分について理由や根拠を明らかにしながら考えを持つことができる。[読] ★「推せんリーフレット」</p> <p>自分の心に残ったところについて、どこまで自分が考えられたか振り返り、次時の交流でどんなことを友だちに聞いてみたいか考えようとしている。[関] 付箋</p>

【授業改善のポイント】

この時間の

全体を把握して読む

自分の考えを明確にする場面

これまでの学習を生かし、自分が取り上げた本の中から「Good (グット) ! くるところ」を選び出し、その理由や根拠となる部分を明らかにします。評価をするときに基とするもの (児童用) を再提示し、本時は⑤-1が主な活動であることを確認してから始めます。次時は、「Good (グット) ! くるところ」について考えた内容について、聞いてみたいことを明らかにして交流する時間です。「Good (グット) ! くるところ」の理由の部分を中心にした交流ができるようにするため、第8時こ終わりに、どんなことを聞いてみたいと考えているか何人かの児童に紹介させて全体で確認し、質問の方向付けをしておきます。その内容について具体的なやりとりをしておくと、児童は次時のイメージが持ちやすくなるでしょう。

(9) 第9時の展開例 (9/11)

ア 目標

自分の心に残ったところやその理由・根拠について、友だちに聞いてみたいことを明確にして交流し、自分の考えを広げたり深めたりできる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	1. 本時の学習課題を知り、学習の見通しを持つ。  (例)「Good (グッと)！くる相談会」！ 「Good (グッと)！くるところ」を交流し、自分の考えを広げたり深めたりしよう。	・前時の振り返り(付箋)を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 ・第1時に児童の言葉でつくった「評価をするときに基とするもの(児童用)」を確認し、本時の学習課題とする。	
まなぶ	2. 「Good (グッと)！くる相談会」を開き、動物と人間の関わりを描いた本の「Good (グッと)！くるところ」やその理由・根拠を交流する。  <b>目的のある交流</b>  (1) 自分の「推せんリーフレット」、ワークシートを基に、動物と人間の関わりを描いた本の推薦を交流する。 <b>交流①</b> ペアでの交流 ・物語を知っている児童同士で交流する。 <b>交流②</b> 4人程度のグループでの交流 ・「Good (グッと)！くるところ」、その理由や根拠について、友だちに聞いてみたいことを示して交流する。	・「評価をするときに基とするもの(児童用)」を再確認し(本時はB-2)、第二次で身に付けた読む力を自覚的に活用できるようにさせる。 ・ここでの交流は、「Good (グッと)！くるところ」について今考えていることを伝え合い、別の視点で考えたり、意見や助言をもらったりして、新たな視点で自分の考えを見つめ直すことが目的であることを伝える。 ・交流では、あらずじ、人物相関図を示してから、「Good (グッと)！くるところ」について交流するよう伝える。	・自分の心に残ったところやその理由・根拠について、交流で聞きたいことを明らかにしながら交流し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。[関] ★態度、発言
いかす	3. 交流したことを基に、考えを再構築するとともに、本時の学習を振り返る。 ・付箋に学習して分かったことや感想などを書く。	・交流で得たアドバイスの付箋を見ながら、どのようにリーフレットを改善していくか考えるよう指導する。 ・何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。	・意見交流を基に、内容について見つめ直し、自分の考えを広げたり深めたりしている。[説] ★付箋



**【授業改善のポイント】**

この時間の

**目的のある交流**

自分が選んだ動物と人間の関わりの本の中で、自分の心に残ったところについて今考えていることを伝え合い、意見や助言を受けて、自分の考えを見つめ直すための交流

ここでは、「Good (グッと)！くるところ」の推薦の内容について、児童が自分の目的に応じた相談をし、アドバイスし合います。第二次の「読むこと」の学習で学んだことを総合的に生かして交流します。児童が自分の目的に応じた内容について交流する活動は、第5時で実施しています。そのときの学習を生かしながら交流します。本単元での付けたい力との関連から、交流する中心は、「Good (グッと)！くるところ」の理由の部分とします。児童の学習状況に応じて、「〇〇のことについて聞きたい」という意識を事前に持たせておきます(P19参照)。

今回は、第二次の交流とは違って、児童が自分が選んだ動物と人間の関わりを描いた本に基づいた交流なので、交流を二段階で行います。交流するとき、アドバイスなのか質問なのかを明確にして話すよう助言します。どのアドバイスをどのように取り入れるか、出された質問についてどのように答えるかを考えることは、児童の考えを深めるきっかけになります。

**交流①** ペアでの交流

**【発表する児童】**

前時に、聞いてみたいことを明らかにしておく。

**交流②** 4人程度のグループでの交流

**【発表者の推薦したい物語の内容を知らない児童】**

物語の内容を知らない立場からの質問やアドバイスを。図書室にリーフレットを置いたとき、内容を知らない児童が見て、どのように感じるか、という視点で意見を出します。

**【発表者の隣の児童】**

前時までに、隣の児童が読んでいる本を読んでおく。事前に物語を知っている立場からの質問やアドバイスを。



(10) 第10時の展開例 (10/11)

ア 目標

前時の交流を基に、物語の中で自分の心に残ったところについて、自分の考えをまとめることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	1. 本時の学習課題を知り、学習の見通しを持つ。  (例) 交流したことを基にして、物語の「Good (グット) ! くるところ」を、理由や根拠を示しながら推せんしよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返り (付箋) を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。</li> <li>第1時に児童の言葉でつくった「評価をするときに基とするもの (児童用)」を確認し、本時の学習課題とする。</li> </ul>	
まなぶ	2. 前時の交流で再構築した自分の考えを基に、リーフレットを加筆修正する。  <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block;">自分の考えを明確にする場面</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「評価をするときに基とするもの (児童用)」を再確認する。</li> <li>この時間ではまず、前時の交流で再構築した考えを基に、「Good (グット) ! くるところ」(リーフレットの㊸) を加筆修正し、清書することを伝える。その後、全体を見直し、「推せんリーフレット」を完成させることを伝える。</li> <li>交流を基に、どのように加筆修正しようと考えているか、何人かの児童に発表させる。意図的指名を行い、全体での方向性を確認する。</li> <li>机間指導し、加筆修正の仕方について個別に助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の意見交流を基に、薦せんの内容について見つめ直し、自分の考えをまとめることができる。〔読〕 ★「推薦リーフレット」</li> </ul>
いかす	3. 作者のことや、同じ作者の他の作品を紹介したり、取り上げた部分のイラストを描いたりするなど、創意工夫して、リーフレット作りをする。  4. 本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>付箋に学習して分かったことや感想などを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>並行読書など、これまでの読書経験を生かし、「推せんリーフレット」の㊸の部分を書くよう指導する。</li> <li>推薦の部分ができていない場合は、引き続き推薦の部分を書くよう伝える。</li> <li>㊸、㊹の部分を書けたら、全体を見直し、必要に応じて加筆修正するよう指導する。</li> <li>机間指導し、加筆修正の仕方について個別に助言する。</li> <li>前時のグループで、次時に全体発表するグループ代表者を推薦する。</li> <li>何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの読書経験を生かし、自分が取り上げた心に残ったところや作者との関連を考えながら、進んでリーフレット作りに取り組むことができる。〔読〕 ★態度、「推せんリーフレット」</li> </ul>



**【授業改善のポイント】**

この時間の

自分の考えを明確にする場面

前時の交流で考えたことを生かし、「Good (グット) ! くるところ」の推薦の内容を加筆修正します。「評価をするときに基とするもの (児童用)」を再提示し、理由や根拠を示した推薦を目指すよう指導しましょう。

★「Good (グット) ! くる感」が伝わるように、引用や要約した部分を活用しながら、物語全体での位置付けを示すことができているか。

★「Good (グット) ! くるところ」が、児童自身にとってどのように心にひびいたのか、自分の考えが (児童の経験などの具体例などを交えていると、なおすばらしいです!) 書けているか。

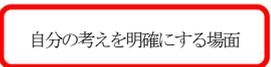
自分が推薦したいことが、薦めたい対象にとって心に響くものになるよう、相手意識を持って推薦文を書くことが重要です。

(11) 第11時の展開例 (11/11)

ア 目標

読んだ動物と人間の関わりを描いた本や友だちの「推せんリーフレット」を使った本の推薦を基に、同じ題材の作品に対する考えを広げたり深めたりするとともに、今後の読書に対する意欲を持つ。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	1. 本時の学習課題を知り、学習の見通しを持つ。  (例) 読んだ本や友だちの「推せんリーフレット」を使った本の推せんをもとに、学習のまとめをしよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返り(付箋)を、意欲付けとなるコメントとともに何人が紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。</li> <li>第1時に児童の言葉でつくった「評価をするときに基とするもの(児童用)」を確認し、本時の学習課題とする。</li> </ul>	
まなぶ	2. 学級全員で、代表者の「推せんリーフレット」を使った本の推薦を聞く。 (1) グループ代表の友だちの発表を聞く。 (2) 発表者のよかった点について、話し合う。  	<ul style="list-style-type: none"> <li>「評価をするときに基とするもの(児童用)」と照らし合わせ、よかった点について学級全体で話し合う。</li> <li>ここでの交流は、代表者の本の推薦を聞くことにより、よいところを確認したり参考にしたりして、学習のまとめをすることが目的であることを伝える。</li> <li>友だちの本の推薦の、どの部分に着目したか、根拠となる部分を示すよう助言する。</li> <li>全員の「推せんリーフレット」を図書室に置くことを再度伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表者の「推せんリーフレット」を使った本の推薦を聞き、評価したことや考えたことを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。(関) ★態度、発言</li> </ul>
いかす	3. 読んだ動物と人間の関わりを描いた本や友だちの「推せんリーフレット」を使った本の推薦を基に、本単元の学習を振り返るとともに、今後読んでみたい本について考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元の学習のまとめとして考えたことを、根拠(読んだ本、聞いた本の推薦や自分がしてもらった助言など)を明らかにしながら書くよう助言する。</li> <li>考えたことを、どのように今後の生活に生かすのか考えさせる。</li> <li>何人かの感想を発表させ、学習のまとめとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見交流を基に、読んだ本の登場人物の気持ちの変化や、自分の考えと関連させて意味付けたこと、目的に応じた考えのまとめ方(薦めたい対象に応じた推薦の仕方)についての考えを広げたり深めたりしている。[読] ★態度、付箋</li> <li>学習経験を生かして、これからも動物と人間の関わりを描いた本の読書を進んでしようとしている。[関] ★付箋</li> </ul>



【授業改善のポイント】

この時間の

自分の考えを明確にする場面

目的のある交流

代表児童の推薦文の発表を聞き、確認したり参考にしたりして、学習のまとめをするための交流

第10時は、「まなぶ」の時間に代表者の「変化の理由はなんでショー」を基にしながら、「評価をするときに基とするもの(児童用)」を活用して、これまでの学習のまとめをしていきます。

<児童と確認する「評価をするときに基とするもの(児童用)」の例>

- ㊤—1…物語を読んで、おおまかな内容をつかもう。
- ㊤—2…物語を読んで、登場人物の関係をつかもう。
- ㊤—1…物語を読んで、自分にとって「Good(グット)！くるところ」がどこか考えよう。
- ㊤—2…「Good(グット)！くるところ」を交流し、自分の考えを広げたり深めたりしよう。
- ㊤—3…交流したことを基にして、「Good(グット)！くるところ」を、理由や根拠を示しながら推せんしよう。

このことを、代表者の「推せんリーフレット」を使った本の推薦の内容と照らし合わせながら全体交流し、確認します。代表者の具体的な「推せんリーフレット」の内容を参考にしながら自分のこの単元での学びを振り返り、学習のまとめとします。

このお話を推せんするのは、

五年

組

（

）

です。

（

推せんします！

）人に

作品タイトル

本文

あらすじ



理由

人物  
相関図